

風土記の丘冬期企画展『岩橋型横穴式石室の始まり』の開催

当館では冬期企画展として『岩橋型横穴式石室の始まり』と題する展示を 1 月 19 日（土）から 3 月 3 日（日）の期間実施しております。すでにご覧いただいた方はいかがでしたでしょうか？まだご覧いただいていない方に、この展示の一部を紹介しておきたいと思います。

その展示の内容は、全 4 章で構成されています。第 1 章は「岩橋型横穴式石室とは？」として概観を紹介するものです。ここでは古墳群における埋葬形態の種類、構造、特徴、様式などについて簡単にパネルで紹介しています。

第 2 章は、岩橋型横穴式石室の出現です。6 世紀の初頭に大谷山 6 号墳、大谷山 28 号墳で岩橋型横穴式石室と呼ばれる特徴的な横穴式石室が造られました。ちなみに岩橋型横穴式石室とは、石棺などの棺を用いず玄室を板石で閉塞する点など畿内地域より北部九州や肥後地域との石室との類似点が多く認められる石室形態を指すものです。

第 3 章は、岩橋型横穴式石室の各地区への受容です。大谷山 43 号墳、井辺前山 36 号、など 6 世紀初頭から前半の時代に造られたものです。この段階までは前方後円墳の主体部として構築されてきましたが、さらに拡大するのが次の段階です。

第 4 章は岩橋型横穴式石室の展開です。6 世紀から岩橋千塚で県内最大の前方後円墳が造られるようになり、小型の円墳も爆発的に増加しています。また造り出しで行われた埴輪と須恵器の儀礼では両面人物埴輪などの独特な埴輪の存在を含め、岩橋千塚の特徴について注目されます。

これら地域色豊かな古墳の開花は、ほぼ時期を同じくして岩橋型横穴式石室の導入とも深い関係があると思われまます。さて、この後、岩橋型横穴式石室の発展はどのようになるのかは興味の尽きぬところですが、その答えは来年度の秋の特別展示で詳細に示されるとのことですので、それまでご辛抱ください。

なお、今回の企画展示に際し、資料の出展など種々ご協力いただいた方々に厚く感謝いたします。

この展示に引き続き、3 月 23 日（土）からは、春期企画展『縄文・弥生の「海の道」と「陸の道」—紀伊半島と東西交流—』が始まります。この展示は 5 月 12 日（日）まで行われます。

このほか 2 月と 3 月には連続講座、展示講座や古墳ガイドツアーなどが目白押しに計画されています。皆様方のご参加をお待ちいたしております。

また「ふどきっず」の卒業制作が 2 月 17 日に行われます。